

宮澤俊憲（みやざわ としのり）

教授

専門分野／データ解析、技術経営論

東京工業大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士課程修了。博士（工学）。亜細亜大学経営学部非常勤講師、専修大学経済学部非常勤講師、東京成徳期大学ビジネス心理科准教授、東京成徳大学経営学部准教授を経て、平成25年現職。



経営学部の情報処理科目カリキュラムについて

将来、どのような分野に進むにしてもコンピュータは欠かせない存在です。経営学部では、4年間の履修課程を通じて社会人として必要な「情報リテラシー」を身に付けられるようになっています。また意欲のある学生に対しては、さらに学習を進めて情報処理に関する知識を拡充できるように科目を構成しています。

授業では、最初の1年間で Word、Excel、PowerPoint のような仕事をする上で必須となる Office 関連ソフトを、基本から中級レベルまで段階を踏んでマスターします。まず1年次に基本的スキルを確実なものにしておくことが肝要です。

なお、こうしたソフトを使うときにすべての機能を知り尽くす必要はありません。2割程度の機能を知っていれば、8割以上の仕事が片付きます。よく「8対2の法則」と言われています。ソフトの操作方法を習得するには、実際に「使って覚えていく」のが早道です。

2年次以降は意欲的な学生向けに、単なるソフトの使い方だけでなく、より発展的な学習ができるように科目が配置されています。いずれも各自の興味に応じて選択履修することが可能です。

2年前期には XHTML と CSS を使用した Web サイト作成、PHP プログラミング入門、ネットワークと通信の仕組みなどを学びます。2年後期にはコンピュータシステムの基本動作原理やシステム開発技法などを学ぶことができます。またセキュリティ技術を概観し、情報社会の最新動向に対する理解を深めることも可能です。

また、経営学部生には企業経営や経済・産業の動向をデータにより科学的、客観的に分析する能力が求められます。そこで3年前期には、主要な統計処理手法を学習することにより、職業人に必要なデータ分析力を養成します。さらに、3年後期にはデータベースの標準的言語である SQL を習得できます。このような学習プロセスを通じて身につけたスキルを証明するものとして、経営学部では国家資格の IT パスポートを取得することを奨励しており、その対策科目も設置しています。

また、ゼミナールに所属すると4年次に卒業論文を提出します。論文を作成するプロセスのいたるところでコンピュータを使う必要があり、そのときそれまでに習得した知識やスキルが役に立ってきます。実際に自分の頭で考え試行錯誤しながら種々の作業を進める中で、本当の意味で「コンピュータを活用できる」ようになります。

是非、在学中の機会を積極的に利用し、ITの実践力を高めてください。